

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターだいち		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 6日		R8年 1月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30人	(回答者数) 28人
○従業者評価実施期間	R8年 1月 6日		R8年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	24人	(回答者数) 24人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもや保護者にとって安心して過ごすことができる環境。環境を活かした活動の提供。	教室だけではなく遊戯室や園庭など身体を十分に動かせる環境。 防犯カメラや自動ロックなど防犯体制も整備している。牧場を中心に自然豊かな環境に囲まれており、季節を感じられる課外活動を実施している。	法人の環境を十分に生かした活動を実施していく。 防災訓練や不審者訓練等、より精度の高い訓練を実施していく。
2	多様な専門性を持つ職員で日々子どもたちの支援にかかわることができている。	多様な専門的視点によるアセスメントや支援を実施することができる。	子どもの特性の理解を深めるため、多職種連携に力を入れていく。 より支援の質を高めることができるよう取り組んでいく。
3	地域の保育、医療、福祉施設と連携して支援体制を整えている。	関係する機関へ訪問、電話連絡等を行い、子どもの様子や支援内容を確認。 子どもの支援を関係機関と共同して模索している。	並行通園のお子様については園訪問を年2回程度実施していく。 関係機関と連携し、それぞれの役割の元、適切な支援が行われるよう

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	長時間にわたる利用者の受け入れを行っているため、研修の確保が困難であった。勤務時間にばらつきあり、職員が同一研修を受け、実践に生かすことが不十分であった。	今年度事業を開始したため、内部研修は充実させることができなかった。 雇用形態や勤務時間の違いもあり、研修時間の確保が困難だった。	正規職員については年1回外部研修へ積極的に参加をすること、法人内事業所と共同で研修を計画していく。
2	連絡アプリを使用していないため、電話連絡や連絡ノートを紹介してやりとりをしている。	電話の行き違いや言葉だけでは誤解が生じる場面がある。 外国籍の保護者も多いため、連絡がスムーズにいかないことがある。	連絡アプリの導入を進めている。 アプリ以外にも保護者が安心して情報を共有できる方法や頻度を検討していく。